

令和元年度 第1回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和元年8月6日(火) 午後1時30分から

場所 市役所1号館3階 第1会議室

出席委員 12名

欠席委員 2名

事務局 9名

1 開会挨拶

【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝する。

この会議は中小企業の施策に対して意見を伺う場であり、本日の意見を中小企業の施策に反映させるものである。

中小企業者を取り巻く環境は、人手不足をはじめ様々な課題を抱えている中、6月に天神町銀座商店街の中にコネク22という中小企業サポートセンターを防府商工会議所が設置された。設置から2か月経過したが、中小企業者からの評判も良く、市としても安心しているところである。

本日は、昨年度に防府市が実施した中小企業の施策の実績等について報告する。

委員からの忌憚のない意見をお願いします。

2 委嘱状交付

3 正副会長選出

○ 会議成立の報告

14名の委員中、12名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨の報告。

4 防府市中小企業振興会議について

【事務局】

～ 防府市中小企業振興会議について概要説明 資料1 ～

本市では、中小企業の振興を市政の重要な柱として位置付けており、地域経済を活性化し豊かな住みよいまちの実現に寄与することを目的に防府市中小企業基本計画を平成27年度に制定している。

防府市中小企業振興基本条例に4つの基本理念、8つの基本方針を掲げ、防府市中小企業基本計画にある基本方針に基づく8つの目標と具体的な取組及び重点施策はこの基本方針に基づくものである。

本日開催の振興会議は、防府市中小企業振興基本条例第13条に規定されており、中小企業振興策を調査審議するためのものである。皆様方の御意見を承りたい。

5 景気観察指標について

【事務局】～ 景気観察指標を基に説明 資料2 ～

地区別人口推移の現時点では、平成27年度と比較して防府市全体で1562人減少しているが、外国人は729人増加している。国土交通省地価公示では、公示価格の上昇地点数も増加している。空き店舗率は、天神銀座と栄町商店街の率が高くなっている。防府管内の有効求人倍率も各月で前年を上回っており人手不足感が強くなっている。新設住宅着工件数においては、人手不足という中で人員確保のために会社が住宅を確保するための着工が散見される。三田尻中関港貿易概況においても、ほとんどの月で前年度を上回っている。為替レートの推移では6月以降円高が進んでおり、アメリカと中国の貿易戦争の激化が予測され、ドルが売られ円高がさらに進んでいる。今後も注視が必要である。

【会長】

防府市でも人手不足等言われているが委員の皆さんから御意見等あれば伺う。

【A委員】

有効求人倍率の就業地別というのはどういうことか。

【事務局】

資料では、防府職安と就業地別の欄があるが、防府職安に求人票が提出されるもの以外で、全国各地で提出された求人票のうち、就業地が防府市というものである。

【B委員】

防府市では、2年前の2017年5月時点の郵便局を除く金融機関の預金量と現在を比較すると約200億増加し、融資量も約210億増加している。預金は個人、融資は法人の設備投資が伸びている。建物など住宅関連含めて、資金的には潤沢に動いている状況といえる。

6 平成30年度中小企業振興施策の実施状況について

7 令和元年度中小企業振興施策について

【事務局】～ 平成30年度中小企業振興施策の実施状況の資料を基に説明 資料3 ～

～ 令和元年度中小企業振興施策について、防府市中小企業振興基本条例・防府市中小企業振興基本計画体系図及び令和元年度主な新規中小企業振興策を基に説明 資料4 ～

【会長】

平成30年度事業、令和元年度事業含めて委員の皆様の意見をいただきたい。

【C委員】

令和元年度の企業の魅力発信事業の中で、若者等の地元定着率の向上を図るとなっているが、若者はどんどん外に出て、その若者が出た先で、また防府に帰ってきたいと思えるような魅力が必要。

市内のみではなく、全国的に防府の魅力を伝えられる仕掛けがあればいろいろなものを見てきた若者が防府に戻ってきて活躍ができるのではないかと。

【会長】

いわゆるIターン、Uターンに関する施策も入れたらという御意見ということでよろしいか。

【B委員】

金融機関では、中小企業の事業承継を含めた色々な融資、補助金制度などがあり、この説明の表でもそうであるが、個人の方が見て分かりにくい。こういうことに集中的に対応できるということで防府市中小企業サポートセンターを市の協力により設置したということ。金融機関としては、防府市中小企業サポートセンターの機能をフルに活用するということが今年度の最大のテーマと認識し連携し傾注していきたいと考えている。

【会長】

市の施策としてどんなことに期待するか。

【B委員】

セミナーの開催とか、いろいろな形で関与することがあり、許認可等も含めワンストップでできるということもポイントのため、市とは一緒に協議ができる場を作っていたらいいかと考える。

【D委員】

働く場所を作ること。そこに人が集まること、ひいては防府の人口を増やすことが一番の目的と考えるが、現在の山口県は承継者がいないため廃業率が高いと聞いている。我々の業界でも承継の受け皿を作ろうと動いている。

防府市はポテンシャルが高いが、雑多過ぎる。小さいところでいろいろやっけてはいる

が核がない。やらなければいけないことが多いとは思いますが、大きなことをやっていない。核になるもの、例えば商店街ならば商店街に、駅前なら駅前にお金をつぎ込むなどすれば、変わってきて賑やかになるのかとも考える。

【会長】

予算をもっと集中化したほうが良いということか。

【D委員】

今までもそうだと思うが、額が小さいとどうしても中途半端になる。集中するのは難しいと思うが、年度によって集中するところを作ればよいと思う。

【E委員】

資料を見ていて、予算の振り分けが妥当なのか、事業が多いので的を絞った事業実施が必要ではないか。栄町に空き店舗が多いのでそこに的を絞るなどが必要ではないか。駅の前に屋台村があるなど、人が来る仕組みがあれば、また来てみたい、住んでみたいと思えるのではないかと思う。

【A委員】

基本方針があり、8つの目標があり、重点施策があるという作りだが、いつの間にか重点施策がどこかにいっている。また、それぞれについてのKPIはあるが、30年度の実施に関する目標値が書かれていない。

31年度(令和元年度)で事業の見直しがあり、事業の見直しはいいことだと思うが、基本方針からどこに向かっているのかわりづらい。この辺りをわかるようにすれば、後々、目標が達成できているかどうかはわかりやすくなるのでは。

産業集積の活性化に工場等設置奨励金があるが、もちろん大きな企業が増設することにより、中小企業にも仕事が回るということがあるため中小企業にも関連することであるが、額が大きい大企業の施策がここに入ってくると、中小企業に対しての予算が見えにくくなっているため、大企業と中小企業で分けたらどうか。

【F委員】

ほうふ幸せます働き方推進企業認定制度はいつから行われて、どういう内容なのかはどこかで公開されているのか。

【事務局】

平成29年7月から募集開始し29年度、30年度と実施している。戸別に配布される広告やホームページで認定企業の紹介を掲載している。昨年は朝のテレビ番組中の天気予報の中でバックに流していたが、浸透していないため、これからもPRに努めたい。

【F委員】

女性の活躍応援・人材確保支援事業と令和元年度の人材活躍応援事業は同じものか。

【事務局】

昨年度まで交付金事業として、イオンほうふ店の中でほうふ女性しごと応援テラスを設置していたが交付金が昨年度で終了したため、このままの規模で実施することができなくなり、今年度は山口しごとセンター・ハローワークと連携し、女性の就労支援を行うこととしている。

【F委員】

予算が10分の1になっている。

【事務局】

予算は減っているが、これまでと同様の効果が出るように実施したい。

【G委員】

中小企業、特に小規模事業者の経営環境が複雑・多岐に渡って問題が出ている。人手不足、消費税の問題、軽減税率の問題、働き方改革などいろいろな面での問題が経営者にのしかかっている。それに沿った施策が今年度は構築されていると感じている。

その中で、防府市中小企業サポートセンターを6月3日にオープンした。実営業日が20日、相談件数が69件、1日3.4件の方が利用されている。7月の営業日数が22日、相談件数が82件、1日3.7件の方の利用がある。

相談内容は、複雑・多岐に渡っており、経営革新、事業連携、知的財産などの相談がある。こういう相談をワンストップで受けて、こういった施策をどう組み合わせるのか、支援できるかについてサポートセンターで相談に乗っている。

会議所での経営相談件数は6月までに250件超あり例年通り、うれしいことにサポートセンターができた効果で、敷居が低くなり、今まで会議所に相談に来られていない方が相談に来られている状況である。

サポートセンターで受けた相談は、1週間ごとに会議所の指導員が引き継ぎ、現場で相談を受けている。いま、中小企業にとって必要なことは寄り添う、気に掛けるということが重要で、会議所の指導員がフォローアップできている。

新年度の施策を情報提供することも、サポートセンター、会議所の役目と思っている。また、情報の一元化についても計画しているところである。

【H委員】

個人的経験から意見を言わせてもらおうと、工場設置奨励金と土地の取得を比べた場合に、土地の方が高額な奨励金が出ている。実際は工場の設備や店舗などの方が事業主としての用途が多いのではないか。

事業継承については、同族で御子息が継がれる場合にはそうでもないが、他人が事業を継ぐ場合にはかなりの資金が必要。そのあたりの予算も必要ではないか。

【I 委員】

これまで、いろいろな施策が事業者へ伝わっていなかったことが、サポートセンターができたことによって伝わるようになり、サポートセンターで聞いたがどうなのかという相談が増えている。当初、エフビズといわれていたが、派手ではないが存在感がある業務をされているのではないかと感じている。

【J 委員】

まず、情報量が多すぎるので消化しきれていないが、防府市がどこに向かっているのか、市民、市の職員含めて具体的に共有できているのかどうか分からない。

中小企業振興はこのまち自体が発展しないと企業が展開しない。そのためには、市自体がどういう方向にどういう施策でもって行くのか見えていない。

例えば、市の職員に聞いて8割、9割の職員がこういう方向に行くとは明確な答えが返ってきて、そのためにこういう箱がある、こういう人材がいるというのであればわかるが、いままで全部逆ではないか。根っこの部分が私には見えない。

防府に生まれた若者は帰ってくるための魅力がないと帰ってこない。これまで防府が培ってきた歴史の中で、一番大切なものは何なのかを改めて絞り出して、行政だけではなく市民も含めて考える必要がある。ほかのまちと同じようなことをやったところで防府の生き延びる先はない。防府の周防という名前がどんなに素晴らしいものかという認識がない、幼稚園、小学校、中学校の教育の中で教育されてきたのか、根本の部分がないと防府に戻ってこようとは思わない。根っこの部分が施策と並行して時間がかかってもよいので必要と考える。

【K 委員】

他の委員からも、事業や資金の集中をという話があったが、今回事業を組み直している中で、PDCAのドゥとアクションの部分はわかるがどういうチェックをして今回組み直したのかが見えにくい。

チェックが見えてこないと今回示している令和元年度のアクションが妥当なのかが委員にも見えにくい。そのあたりが各委員の発言の中に伺える。

職務上、中小企業の経営者と話すことが多いが、その中で、継承したいが継承するときには、何か新しいものを作ってから次の人に渡したいと、承継に関する御相談を受けて支援することのお手伝いが多い。承継に関する事業が資金融資などの話があったがその他にどういう承継に関する支援があるのか今回の資料では見えにくい。その他何かあるのか示してほしい。

中小企業の活性化で新商品を作ることが多いが、できた新商品が生き残っているのか。大学が手伝って新商品を作っても生き残るのは10分の1くらいしかない。

スーパーに行っても商品を見たことがない。実際にどの程度生き残っているのか。

KPIもわかるが、各事業の効果・効能も説明の中で示していただきたい。検証のところへの事業のテコ入れということをしていただきたい。

【会長】

(5) 交流及び連携の推進並びに事業の共同化のための組織整備のところの説明で、連携してものを作るというところが0件というところがあったが、その理由が気になる。投資したものの回収ができない、その理由が何なのかというところは分析して、今後に生かしてほしい。

優れたものもあるが、うまくいかなかったものについては、検証すべきで、PDCAを回すということは重要である。分析されているのであれば、表に出してほしい。

産業集積という計画があるが、防府市には大企業があるがそこが撤退すると地域経済は大打撃を受ける。今の日本の状況を考えた時には、大企業から選ばれる地域になっているのかということが重要。その魅力を高めていく、裏には地域間競争がある。

大企業は、国内生産を集約したり数を少なくしたりすることを考えている中で、その中でも選ばれていく。例えば、防府に行けばサービスのクオリティーが違うとか、工業高校出身者の質が全然違うとか、企業間で様々な連携を行ってくれて、非常に効率がいい工場運営ができるというようなことで、地理的に土地の値段とか税制優遇が他市に劣るという時でも、トータルに見たら防府が一番という状況を作ることが重要であるので、そういうことを絡めて産業集積の施策をやる。単に補助するということも必要だが、地域間の競争にサービスのクオリティーの向上ということを含めるということも考えられる。

大都市から離れている地域の企業は、取引先を間違えると利益を全部取られてしまうということがよくある。地域商社の活用の仕方、中小企業の身の丈に合った企業と取引し、お互いがウインウインの関係になることが重要。そのことを実践するだけで企業の利益は相当変わってくる。そういうことと絡めた販路開拓など効果がある施策になるのではないか。

さきほど、ワンストップのサポートセンターができて、そこで様々なアドバイスが得られて支援してもらえる、その中で利益を生む販路開拓などがあれば、防府市の中小企業のサポート体制というのは格段に良くなっていくと思われるので、そういう方向で考えていただきたい。

事業承継については、外の人がやってみたいと思えることを積極的に行いサポートセンターのサービスと絡めてやれば相当なメリットとなる。常に地域間競争がある中でより良いサービス、特徴のあるサービスを防府市が提供していくというエッジを立てた施策を考えることが重要ではないか。

委員の意見をまとめると、もう少し集中化したらどうかということと、サポートセンターのワンストップのサービス、ここをうまくやっていくこと。

そして、防府市がどこに向かっていくのか、どういうまちづくりをして、そのために中小企業はどういうことをやっていくのか。

どこに向かうではなくても、防府市は、大企業と大企業関連の中小企業、観光・文化・伝統、商業地のように3つか4つに類型化し、そこに適切なサービスを行っていくとい

うこともひとつの方法ではないか。

最後に、PDCAをもっと回すことにより良い施策が出てくるようにしていくこと、そして、働き方改革、特に女性の活用についてどうなっているのかということ、推測ではあるが、働きたい女性に市の情報が届いていないのかもしれないということであれば、広報の仕方とかに問題があるのかもしれない。

【G委員】

広報のところで、中小企業者から、その情報は知らなかったという声もあるので、現在、サポートセンターであらゆる機関からの情報を一元化して発信するためにホームページを作成中である。それも中小企業者側の目線で見やすいものを作成している。

8 その他

【事務局】～ 平成30年度防府市の工事・役務・物件契約における中小企業者の受注状況について、資料に基づき説明 ～

【会長】

その他の2つ目、防府市中小企業振興会議主催のフォーラムについて、今年度はこの振興会議の主催でフォーラムを行う予定ということだが、事務局案では「プレスリリースの方法」をテーマに考えているということだが、何か意見はあるか。

【事務局】

プレスリリースセミナーは、中小企業者の持たれている良い商品をうまくPRや広報できないという方が多いということで、事務局案として提案させていただいた。

【会長】

プレスリリースについてただ話すということだけではなく、何を話すのか、自社製品を話すのか、自社の特徴が分かっていない事業者は多いので、どうまとめてどう説明したらよいかを考えるきっかけとなり良いことだと思う。

もうひとつは、中小企業が大企業と組んで成功するときに成功する2つのパターンがある。一つは製品そのものが圧倒的に差別化されている場合、これは少ない。もう一つは、マスコミがその製品を取り上げる、そうすると中小企業と大企業の立場が逆転し、交渉力が全く変わってくる。取引価格の上昇や店頭が目立つ位置においてもらえるなど中小企業の商品であっても売りやすくなるということがある。

【D委員】

プレスリリースのことは以前に受けたことがあり、感心するところはあった。面白いとは思いますが、最近ではSNSの方が時代に合っているのでは。

【G委員】

会議所でも、SNS系のセミナーは人気がある一方で、プレスリリースで商品を第三者が評価してくれるということは魅力アップにつながることもある、そういう意味ではプレスリリースの手法も必要ではないか。

【会長】

マーケティングの考え方で行くとプレスリリースの場合は文字情報が多くなるため論理的な説明ができる。SNSは画像情報が多いものになる。こういうことを事業主が分けて使用できる、そういうことを含めたセミナーであれば良いのでは。

【B委員】

同感である。今あるものと新しい手法を混合して活用することで対応できるので良いのではないかと思う。

【会長】

今年度のセミナーは、SNSも含めたプレスリリースする。ただし、自社製品を論理的にアピールするにはどうすれば、イメージとしてどうすれば、また、どの程度売れば良いのかなどを含んだプレスリリースセミナーということで事務局へ願います。

【事務局】

フォーラムに関しては、今の御意見を取り入れながら、時期的には年明け頃に行いたいと考えている。

フォーラムのテーマ案については、知的資産をテーマにしてはどうかと会長から御意見をいただいていたが、検討した結果、フォーラムで実施するより人数を絞ってセミナーとして開催したほうが効果的ということで、サポートセンターでのセミナーとして実施することを考えている。具体化したら皆様にはお知らせする。

【会長】

その他、何か御意見等あるか。

【G委員】

8月20日に野村忠史氏を講師にサポートセンターの開設記念セミナーということで「販売力強化の極意」というセミナーを開催する。

【A委員】

この会議に初めて出席したが、事前に資料を送られてきたものと過去の議事録くらいしか材料がない、新人向けに事前に勉強会などを実施してほしい。

【会長】

それでは、事務局にお返しする。

【事務局】

今回の開催については、委員の皆様の御意見を含めて新年度予算を編成していきたいと考えているため、10月頃を予定している。

【市長】 ～ 閉会の挨拶 ～

本日は御多忙の中、御意見をいただき感謝申し上げます。

最後にA委員から資料が分かりにくいという御指摘いただいた。中小企業施策が並べであるが、国や県も同様の施策を行っているものを市も実施している、それらを整理した形で見ていただければと思う。

C委員からは、Iターン、Uターンということでの御意見をいただいた。戻ってきたくなる防府ということであったが、それらについても県と一緒に、輝くものになりたいと思う。

B委員、I委員からはサポートセンターのことがあったが、このサポートセンターになったことで新たな中小企業者のニーズが分かるのではないかと考えている。

K委員からは、どういう視点で見直したのかわからないとの御指摘、市長になって半年の時点のことだが、サポートセンターを活かしながら取り組んでまいりたい。

E委員からは空き店舗対策のこと、A委員からは企業立地の奨励金のことを伺ったが、市の中でも検討課題ということで取り組んでいる。

また、的を絞れという御意見をいただいた。働き方改革がある中で、施策も絞っていくということになると、関係事務も相当あるため、防府が良くなるように施策も絞っていきたいと考える。良い事業についてはしっかり実施し、必要のないものは絞ってまいりたい。

J委員からは防府の将来ということがあったが、防府の素晴らしさを市民に分かっていただくことが基本と考えている。その中で中心市街地の問題にもしっかり取り組む、防府には以前は鐘紡・協和、宝酒造で栄えてきて、今はマツダ・協和・ブリヂストンがある。大企業の役割、その中で中小企業の役割を踏まえながらサポートセンターを活かしながら施策を行ってまいりたい。

これからも委員からの忌憚のない御意見を聞きながら、来年、それ以降の防府市の中小企業の施策に反映させていただく。

【事務局】

以上で、令和元年度第1回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午後3時12分